

杉田水脈氏講演 「歴史戦に我が国はどう臨むか」速記録

以下は、偕行社教育問題 PJ チームが偕行社会議室に於いて 6 月 30 日（金）に行った杉田水脈氏の講演「歴史戦に我が国はどう臨むか」の速記録です。本講演の白眉である「国連と我が国の関係」については「偕行」9月号に掲載されています。

なお、本文の責は偕行社教育問題 PJ にあることをお断りします。

講師：杉田水脈氏

講演日：6月30日（金）14時～16時

場所：偕行社会議室

演題：歴史戦に我が国はどう臨むか

講演内容

1. はじめに

本日の講演は「歴史戦に我が国はどう臨むか」というタイトルを付けさせて頂きました。バクッとしたタイトルなのですが、それは最近取材に行きますと直ぐに新しいことに直面します。本も今年に入って二冊出版しましたが、直ぐに本に書いた内容が古くなってしまいます。このようなことを踏まえると、私はこの歴史戦というものが既に次のステージに来ているのではと思います。新しい問題が次から次へと出てまいります。それに対処していかなくてはなりません。このような状況下、講演等の予定は三か月前から頂いたりするのですが、タイトルを何にしましょうかと問われた時一番困るのですね。多分三か月後でしたら今日話したことと内容が全く違った内容になってしまいます。それでいつもこのような漠然としたタイトルを付けさせてもらっているのです。

さて、これから国際的な問題を話すのですが、その前に皆さま方の身近な話題として国内の問題にちょっとだけ触れておきたいと思います。

それは最近話題になっている豊田真由子さんという方の問題です。もうご存知でしょうが、秘書に暴言はいたとか、暴力を振るったとかの問題です。私はあれを聞いて全く驚きませんでした。彼女は 2012 年に初当選、私も 2012 年に初当選で、党は違いますが国会議員の同期です。私が彼女の行動で一番びっくりしたのが、所謂「園遊会事件」なんですよ。皆さん「園遊会事件」をご存知ですか？国会議員、全員ではないのですが、抽選で当たった国会議員は園遊会に招いていただけます。私も 2013 年の秋の園遊会に出席させていただきました。その園遊会は招かれた本人と配偶者しか入れません。当然、私は主人と一緒に参加しました。その時、実は彼女も御主人と一緒に来ていました。問題が起こったのは実はその次の園遊会、春の園遊会だったのです。先回の秋の園遊会にご主人と一緒に行った

ので、春の園遊会には親孝行の積りだったのでしょうが、お母さんを連れて行かれたのです。しかし先ほど言った通り、同伴者は配偶者しか入れないのです。これは決まりになって居ます。園遊会では天皇陛下や皇后陛下そして皇室の方々と直接ご挨拶をさせていただいたり、お言葉を掛けていただいたりしますが、どこの空港でもしている様なボディチェック検査が園遊会では一切ないのです。それは、そのようなことが不必要な人しか招待されていないからです。普通に常識を持った日本人しか招待されていないのです。そこに彼女はお母さんを連れていったのです。当然のことながら宮内庁の職員は「ご入場いただけません」と、「招待された方以外は入場いただけません」と言ったのです。そうしたら彼女は「私の言うことが何故聞けないのよ、入れなさい」と言って怒鳴ったのです。最後は「配偶者だと言ってるでしょ！」と言って、入場用バッジを取り上げて、お母さんの胸に付けて強行突破したのです。これは前代未聞のことなのです。先も申したように、そういう方が居ないということが大前提の園遊会なのです。そこを強行突破されてしまった宮内庁の職員も職員だと思うのですが、後で国会議員にこのようなことが無いようにという文章が回ったのです。恥ずかしいことです。だから私はこの時に議員辞職ものだと思ったのです。あの山本太郎という議員さんがいらっしゃって、天皇陛下にお手紙を渡されたという、これも大変不敬なことです。大変不敬な話ですが、規則の中に天皇陛下に手紙を出してはいけないというは無いのです。一方、彼女の方は、いけないとなっていることを犯したということであり、本当に園遊会始まって以来のことを皇室に行ったという点では不敬なことだと思います。何故、当時これを誰も問わなかったのだと思います。にも拘らず、自民党は次の内閣の組閣の時に彼女を政務官に抜擢するのです。彼女の同期でしたら、自民党で百何十人いるはずなのです。その中でその時に政務官になった方は多分3～4人ですよ。そんな抜擢を自民党は彼女に行ったのです。この感覚が私には分かりません。今回秘書への暴行なんて記事が出ましたが、私からすれば、さもありなんですよ。それを自民党が彼女を重用し、抜擢してきたことに疑問を抱きます。私はずっと野党でしたし、次世代の党でしたから自民党のいい所はいいと言います。が、悪いところは悪いと言います。今回自民党を離党されたそうですが、自民党に迷惑をかけたとしか思っておられないから自民党を離党されたのでしょうか、国民に対してどう思っておられるのでしょうか。もし国民に迷惑をかけたと思っておられるならば議員辞職すべきだと思います。結局、園遊会の時のことを反省して居られなかったということでしょう。国会議員としての適格性の問題だと思います。

そこのところをまず皆さんにお伝えしてから、歴史戦のお話をさせていただきます。

2. フランスへ行って気付かされたこと

私は4月と5月にフランスに行ってまいりました。これは何の取材であったかというところからフランスの大統領選挙の取材に行ってきたのです。6月の5日からは国連に行きまして、9日に帰国して、今度は9日の晩からオーストラリアのメルボルンに行きました。オースト

ラリアのメルボルンは向こうに住んでいらっしゃる日本人の方々に招かれて講演をさせていただいたのです。

そこでまずはフランスの大統領選挙から皆さんにお話します。

4月、5月に大統領選挙がありまして、ついこの前は日本でいうところの衆議院選挙がありました。「皆さんの中で、この選挙を注目していたという方はいらっしゃいますか?」「どのあたりに注目されていましたか?」「応援して居らっしゃる方はいらっしゃいましたか?」

【聴者：「マクロンが勝つかルペンが勝つかということなどに興味をもって見ていました】「そうですか、他の方はどうでしょうか?」マクロンさんなどは日本人には殆どご存知なかったのではと思いますが……。保守的な集まりのところに行ってお話しますと、割と注目していたという方が多くて、しかも「どなたを御応援して居ましたか」と聞くと、「ルペンを応援して居ました」という方がすごく多いのです。「この中にもルペン氏を応援して居たという方はいらっしゃいますか?」そうですか。

私も当然のことながらそうなのです。ルペン氏を応援していました。そこでルペンさんに会ってインタビューをしたいと思ったのです。日本のマスコではきっちとしたことが伝えられないのではと思い、自分の眼で見ようと思って、それでフランスまで行きました。

4月に2週間、5月に1週間、向こうに滞在しました。フランスの大統領選挙は二段階なのです。当初は11人の候補が立候補しました。そして4月23日に第一回目の投票が行われ、その上位二人が5月7日に決戦投票となるわけなんですね。

最初4月に行った時は自分でいろいろ調べて歩きました。当然のことながらマクロンさんの集会にも行きましたし、ルペンさんの集会にも行きました。社会党から出ていたアモンさんの集会にも行きました。極左と言われるメランションさんという方のデモにも出かけていきました。少し余談となりますが、私ルペンさんに直接取材をしたいと思っておりましたが、簡単にできるだろうと思って居たのです。それは私も前衆議院議員なので、外務省の便宜供与を受けようと考えたのです。そこで中山恭子先生の事務所を通じて各候補者のインタビューをとりたいということを申請したのです。便宜供与を受ければ、通訳を付けて呉れたり、要人を紹介してくれたり、空港への送り迎えをしてくれたりといったことを全部外務省がやってくれるのです。しかし外務省から返ってきた答えは「国民戦線とルペン氏へのルートは有りません」というものだったのです。これは、私にだけそうだったのか、本当にルートがないのかはわからないのですが……。

アメリカ大統領選挙の時に外務省はトランプ氏へのルートがなかったと言われていました。今回も国民戦線ルペン氏とのルートがなかったのです。私はルペン氏とライバル候補であるマクロンさんのインタビューをとりたいと言っていたのですが、外務省からはメールアドレスを送りますので、自分でやって下さいと返答されたのです。送られてきたメールには国民戦線と社会党と共和党のメールアドレスしかなかったのです。ということは、外務省はマクロン陣営とのルートが無かったと思えるのです。これで二連敗ですね。アメリカの時もフランスの時も、そのあたりの外務省の在り方ということに、私も非常に疑問を呈しま

す。仕方が無いので自分で行って国民戦線のところに突撃取材をしたりとか、ルペンさんにはお会いできなかったのですが、ナンバー2のブルーノ・ゴルニッシュさんという方の取材をしました。実はブルーノ・ゴルニッシュさんという方は「パパルペン（編集注：ルペン氏のお父さん）さんだったら会わせてあげるよ」と言ってくださったのですが、お会いできる日に私はもう帰らなければならなかったもので、お父様とも会えませんでした。しかし「選挙がない時だったらルペンさんにもお父さんのルペンさんにも紹介するから」とおっしゃっていただき、約束はしています。

皆さんに「何故皆さんはルペンさんを応援しているのですか？」と質問します。すると皆さんは「ルペン氏は愛国者だから」とおっしゃいます。はっきり申し上げますが、11人立候補されていた方は全員愛国者です。日本と違うところはここなのです。当然のことながら大統領になろうとする人ですから全員愛国者なのですよ。

それは次のような事からわかりました。

私はいろんな集会に行きましたが、どこに行ってもフランスの国旗がはためいていました。そして皆さん感極まると、国歌を何回も何回も斉唱するのです。ラ・マルセイユというちょっと勇ましい国歌なんです、それを皆さん、足を踏み鳴らしながら、手を叩きながら、感極まって2回・3回も歌うのですよ。これを日本の選挙でやると、それだけで右翼と言われますよね。国旗をはためかしながら、君が代を何回も斉唱したらそれだけで右翼と言われますが、フランスでは当たり前なんです。だから極左と言われるメラソンサンから、日本では極右と言われていましたルペンさんまで皆愛国者なのです。そういう中で政策をどうするのか、福祉政策や経済政策等の政策が右派なのか左派なのか、教育政策がどうなのかというところで、左と右が分かれています。日本の場合は左というのは売国奴のような人でしょ、他の国では通用しない常識なんだなということがまず一点です。

そしてEU離脱のお話をされる方がいらっしゃるのですが、EU離脱を言っているのは極右と言われるルペンさんの陣営と極左と言われるメランションさんの陣営が言うだけで、あとは皆さんEU残留です。マクロンさんなんか当然そうなのですが……。

で、ここから先は私が実際にあちこちを回ってみての感想です。集会に行きますと、どういう人達が集まってきているかということがわかります。例えば、マクロンさんの集会では老若男女こもごもです。フランスは子供の頃から政治に皆さん興味をもって参加しますので、赤ちゃん連れの若い夫婦達もいっぱいやってくるのですよ。そのような中で勿論白人も居ます。黒人も居ます。当然黄色人種も居ます。いろんな人種の方たちが集まっているのですよね。社会党のアモンサンノところもそのような感じでした。メランションさんのデモは黒人の方が起こしていらっしゃるデモだったので、黒人の方が中心でした。しかしながらルペンさんのところに行ってみると、ちょっと様子が違うんです。白人の方が中心です。しかも年配の男性の方が多かった。私の講演会も年配の男性の方がいつもののですが、本日の皆さんのような方が東京ドーム一杯集まったような雰囲気です。

その時にふっと私が思ったことが有りました。というのはフランスが掲げている自由・

平等・博愛という大前提は白人しか想定していないのですよね。これは何処の国でもそうですが、アメリカのリンカーンの『人民の、人民による、人民のための政治』と言うこの『人民』とは白人しか想定していないのです。他の有色人種とか黒人とかは想定していないのです。フランスの移民政策は第二次世界大戦以降、自分達の元植民地の人を優先的に受け入れるようになっていきます。そうすると北アフリカの方から黒人がやってくる。ヴェトナムから黄色人種がやってくるということになったのです。で、その人達は移民とはいえ、ちゃんとした国籍を持ったフランス国民なのです。そのような中であって、白人至上主義を復活させようというのが、ルペンさんのところなんです。私は日本が移民を許容することに反対ですから、フランスの白人女性だったらルペンさんを一生懸命応援したかもわかりません。

しかし、その時にやっぱり私は日本人だなあーと思ったことがあるのです。というのは、大東亜戦争を戦った我々の祖先は世界で初めて人種差別撤廃を訴えたのですよね。しかもヨーロッパに行って訴えたのです。未だ世界中の人が誰もそんなことを言っていない時代にそれを訴えたのです。そして大東亜戦争は植民地を解放するために戦ったのです。その子孫の私達がルペンさんを保守だから、移民を排斥しているからと言って、それだけのことで応援するというのは如何なものかということをもふと思ったのです。これなど行ってみないと分からなかったし、見てみないと肌で感じなければわからなかったことなのですよ。そのようなことを正論の7月号に書かせていただきました。

ただ移民問題を考えるにあたっては、国民戦線のナンバー2のブルーノ・ゴルニッシュさんのインタビューは非常に参考になりました。ブルーノ・ゴルニッシュさんと言うのはフランスの国民戦線の全国代表という肩書をお持ちで、欧州議会議員でもあります。この方は京都大学に3年間留学していらっしやいまして、私の出身地である神戸にもお住いだっただけです。奥さんは徳島県出身の日本人なのです。だからフランス語も英語も話せない私でもインタビューができたのです。日本語でインタビューができましたので色々とお話聞いてきました。彼がおっしゃるには、フランスは移民政策がユルユルなんだそうです。例えばオランダであるとか、デンマークであるとかは移民を受け入れる時にテストがあるということです。オランダ人でしたらオランダ語を喋れなければ駄目じゃないですか。ということでオランダ語のテストがある。またデンマークでは毎年テストがある。あそこは男女平等の国ですから男も女も関係ない。どれだけ稼いでどれだけ税金を納めたか、時事問題についてどれだけ勉強しているか、語学はできるかというテストが毎年あるのですよ。そしてそのテストに合格できなかつたら強制送還。例えば結婚して幸せな家庭を築いていたとしても即・強制送還なのです。と言うことが行われているのですが、フランスはそんなようなことが非常にユルユルなんです。フランス語を喋れないフランス人が一杯居るので。それからフランスは生地主義せいぢと言うのを採用して居ます。日本の場合は血統主義なんです。お父さんお母さんの両方か、もしくはどちらかが片一方が日本人であれば、日本国籍が取得できます。でもフランスは11歳の時点でフランスに居て、18歳までの5年間フラ

ンスで生活すれば、お父さんお母さんが全くフランス国籍を持っていなくてもフランス人になれるのです。これが生地主義と言って、これが採用されたのがフランス革命の時からで、フランスではとても伝統的な移民の受け入れの方式だそうです。ブルーノ・ゴルニッシュさんは次のように言っていました。「フランスの国籍をとりフランス人になるということはその国の法律を順守して、フランスへの愛国心をもってフランスに忠誠を誓ってもらわなければ困るんだ」「フランスの国籍をとるということは前の国籍を捨ててくる覚悟でないで困るのだ」「良い思い出まで捨てろとは言わないが、そういう前の国籍を捨てる覚悟をもって、そしてフランスに忠誠を誓う覚悟をもって移民して呉れなくては困るんだ」ということをおっしゃって、之はその通りだと思うのですよ。

さて日本のことを考えてみましょう。国内では、これからどんどん移民を受け入れるということを言っています。日本の場合は日本人と結婚し、その間に生まれた子供であれば日本人になれます。一見、日本はフランスに比べれば厳しいようですが、日本国への忠誠心などは問われないのですよ。この点は日本も大いに研究していかなくてはいけないと思います。デンマークやオランダ並みに厳しい制度を入れて、それができなかつたら強制送還するというのを考えていかなければいけないのではと思います。

実は、去年の11月に群馬県の大泉町に視察に行きました。あそこは日本国内で一番多くの外国人の方が住んでいらっしゃる所です。地域によっては34%が外国人なんだそうです。日本に住める外国人・労働者の方は今のシステムでは日系人だけなのです。だから大泉町にいらっしゃる方は日系ブラジル人であったり、日系ペルー人が日本に帰ってきていらっしゃるのです。日系人ですから、最初の頃は顔等はほとんど同じだったのですが、今はもう日系人と言われても日本人の跡形が分からないような人が非常に多くなっています。ここで起こっている問題と言うのは、今後日本全国どこにでも起きる問題だと思います。というのは移民の人達を受け入れるのは企業が行っているのです。自治体側としましては、いつどれだけの移民が入ってくるのかは分からないそうです。このような中で自治体として一番の問題は保険の問題です。社会保障の問題です。例えば日本の企業の正社員でしたら会社が一、本人の自己負担が一という形で保険が運用されていますよね。当然のことながら外国人はそんなことは分かりません。説明を聞いてもあまり理解できません。しかも企業も保険をかけない方が自分の懐が痛みませんので、かけません。ということで外国人には説明もしません。そのような中で外国人の方が病気になったり、怪我をします。すると役所の窓口に来ます。そして国民保険で病院に行かせてくれと言います。でも役所の人達は、貴方達は企業に雇われているのであり、移民としてやってきているので、まずは企業に言いなさいと説明するのですけれど埒が明かない。埒が明かないので、国民健康保険に入れてあげて、それで病院に行かせてあげる、しかしその後の費用は全部踏み倒しです。その分の負担は誰がしているかといえば、真面目に税金を払っている日本人に全部上乗せされているのです。しかも企業は当然のことながら外国人の方を正社員として使いません。30代、40代の働き盛りの時は良いのですが、50代になってきますと、もう首を切ります。

首を切られた人はリーマンショック前でしたら母国に帰っていたのですが、リーマンショック後の現在は母国に帰っても仕事がないので、日本に居ればよい生活ができるということで皆さん居座ります。すると、その人達はどうなるかといえば生活保護になるのです。これも全部自治体の負担になるのですよ。そういう状態が大泉では起きているのです。

今こういったことをきっちりとししないで、どんどん移民を受け入れていくと、日本中の自治体が大泉町のようなことに直面することになります。私は移民受け入れに反対です。2050年には日本の人口が8千万に人になると言われていますが、日本の国土に比し8千万人という人口は決して少ないわけではありません。労働力人口がどれだけということはあると思いますが、既に人口統計は出ているわけです。だったら2050年に8千万人になっても誇り高き日本を維持するためにはどうすれば良いかということを考えるのが先ではないかと思うのです。私は国会議員になった時に国会議員というのはそういう議論をやるころだと思っていたのです。そういうことを議論していかなくても、もう既にデータは出ているのですよ。それに基づいて社会設計をして行けば良いのですよ。でもそんなことをする人は誰もいない。今の国会を見ても森友・加計問題ばかりやっていますが、そんなことばかりでいして国会議員の仕事って何なんだろうなということと思うのですよね。

移民を受け入れないといけないのか、もし受け入れなければならないとするならば徹底的に厳しくしなければいけないと思います。今でさえ中国人の5万人の留学生が日本国内で行方不明になっているというけれど、どうしようもできていないのですよ。こんな国他にないですよ。外国人が犯罪をしても、強制送還できないのですよ。

不法滞在者を全部摘発して一旦母国に帰らせてですよ、犯罪をした人も一回強制送還して、一から新しい法律をつくって厳しくした上で再度受け入れていくということを最低限やらなければいけないのではと思います。議論もされないまま今度は研修生で来日し5年居れば日本国籍をあげますよという法案が通ってしまっています。皆さん怖くないですか。私は非常に怖いのです。

移民を受け入れるよりも、現在200万人も居ると言われるニートの人を何故働かせようとしませんか？この人達は現在親が面倒を見ていますが、親がいなくなれば全員生活保護ですよ。そういった働かない若者もいる日本で移民を受け入れていくということは益々職を移民に奪われることになるのではお思います。フランスなんかもそういう状態なのです。そういったことをしっかりやっけていかなくてはいけないと思っています。

私は日本の就職の問題というのは職のミスマッチだと思っているのです。建設業とか土木業とか農業とか林業とかは人手不足だ、人手不足だと言っています。一方、事務職というところでは就職難だ、就職難だと言っています。私も大学生の娘を持っているのですが、国民全員が入れるような沢山の大学があることがおかしいと思っています。大学で話をしたことがあるのですが、「貴方達大学を卒業して何になりたいの？」と聞けば「ネェリスト」とか、「ショップ店員」とか答えるのですよね。それだったら何も大学に来なくても良いの

ではと思うのです。今や皆、猫も杓子も大学出です。大学卒業すると皆自分のやりたいところに就職しようとするのですよね。そしてそこにあぶれたら、引きこもりになってニートになって、働かないというような悪循環が生まれてしまっているのです。私は今の大学数を半分かくらいに減らして良いと思います。存在価値のない大学なんてつぶせばよいと思っています。定員割れしているところは先も言ったように中国の留学生を入れて何とかぎりぎりにし、そして補助金を国から分捕っているわけでしょう。現存する大学を半分にして、付与している補助金を減らせば、そのお金は基礎教育にもっと充当することができます。そして私達の頃のように、農業高校とか、工業高校とか、商業高校とかをもっと充実させれば高卒でも即戦力で働けるのです。建設現業でも土木業でも働ける、農業・林業もできると言った、そのような人たちをどんどん育てれば良いと思うのです。私達の頃まではそうになっていたと思います。私今年50歳になったのですが、あの頃までできていた日本が、今やがたがたになっています。教育制度自体がおかしいのではと思っています。何故大学を一杯作るのか、それは官僚の人達の天下りになっているだけです。

官僚は自分自身でそんなことは改革できないので、この種の問題も政治家がやるしかないのです。これは私が前から考えていたことで、私は国会議員になればこういったことも議論できると思っていたのですが、国会の中でどこもさせてくれないのですよね。

こういった本質的な問題を議論しないのですよね。何故そのようなことになっているかといったら有権者の皆さんがそういった国会議員を選んでいるからなのです。冒頭に豊田議員のことを申しましたが、いつもこのようなことが起きると「なんでこのような奴が国会議員になってるんだ」と皆怒るんですよ。しかし皆さんが投票したからでしょ。というり返す言葉がないのですよね。あの方、埼玉四区だそうですが、埼玉四区の方だけの問題ではないのです。全国の有権者の方の問題です。選択肢が無いというのは分かりますよ、自民党の方が出ていて、民進党の方が出ていて、後共産党の方しか出ていなければ、その方がどんな人かにかかわらず、自民党の人に投票しますよね。というところはあると思いますが……。私なんかは参議院選挙なんか戦ってきたことが有りますが、何回も何回も悔しい思いをしました。この人が国会議員になって居れば先に言った問題などは前に進むのだが、と思う人が軒並み落ちるのです。選択肢がないわけでは無いのです。ちゃんと皆さんが選択していないのだと思うのです。

そう言ったことにも触れさせていただきまして、歴史戦の話にすすめます。

3. リビジョニストと言うレッテル張り

私は6月5日から国連に行き、9日に帰国し、9日の晩からはオーストラリアのメルボルンに住んでおられる日本人の方々に招かれて講演をやりに行きました。よんでいただいた方々は「メルボルン桜会」という会の方々でございまして、70歳くらいの方たちが集まって、いつも勉強会をしていらっしやっただけなんです。そこで誰か日本から講師をよんで講演会をやりたいね、という話になったそうなんです。その時に誰が良いかなという中

に私の名前があったそうなんです。そこでダメ元で聞いてみようかということで、私の事務所に連絡くださいました。すると私が「大丈夫ですよ、行きますよ」と返事をしたのです。しかし向こうはダメ元だったので、あらどうしようということになったそうです。要はよぶにしても資金がないのです。そこで日本人祭りなどでお好み焼きを焼いて、資金稼ぎをしたりして私を招聘してくださったそうなんです。当然のことながら限られた財源の中でやる講演会ですので、会場を公的施設に予約したそうです。市役所の管轄の公的施設を予約したそうです。そうしたらそこに妨害が入ったのです。『杉田水脈という人間は歴史修正主義者、リビジョニストで、慰安婦否定論者で、とんでもない人間だ』と。『なんでこんな人間の後援会に会場を貸すのだ』と苦情が入ったのです。そこで市役所の方が主催者を呼んで、杉田水脈に関し英語で書かれないいくつかのインターネットのホームページを見せながら「ここには『Mio Sugita is a revisionist』とある。しかも彼女はテロリストでひどい人間だと書いてある。これは本当か？」と問われたそうです。彼女たちはそれに反論しようと思ったのですが、悔しいかな、私のことを正しく英語で説明するサイトがないんです。私のホームページも日本語ですし、私のブログもフェイスブックもツイッターも全部日本語なんです。英語でやるだけの手が参らないですし、お金もありません。当然そうなるのですが、反論ができないのですよ。で、仕方なく彼女たちは会場を変更してホテルの一室を借りて、私の講演会を無事終えることが出来たのです。たくさんの人数の方が来てくださって、今ここにいらっしゃる位の人数的の方が来てくださって、無事終えることが出来たのです。しかし私はメルボルンに行った際に『小学校を訪問し、生徒さんたちが歌う歌を聞く』という歓迎の催しがプログラムに組み込まれていたのですが、それも全部なくなってしまったのです。これは本当に残念だったのですが、こういうことが起こってきた背景を推察するに感ずるところがあります。『杉田水脈はリビジョニストだ』と書いてあるのですよね。『歴史修正主義者』これはフランスに行った時に、向こうに住んでいる方々と色々な話をしたのですが、欧米で歴史修正主義者というレッテルを貼られると、これは悪魔も同然なんですよね。どういう意味かとかと申しますと、ドイツのナチスのユダヤ人大虐殺、ホロコーストを否定する者という意味なんです。

『Revisionist』と同じような意味で、もう一つ『ネガシオニスト』という否定論者というものがあるのですが、この言葉も同義語です。こういうレッテル張りをされてしまうと欧米では誰もこの人の話を聞く耳を持たないのです。どこの場面でもシャットアウトされてしまって、こんな人間とんでもないとなってしまうのです。というのはリビジョニストといえば、欧米ではホロコーストを否定することであり、犯罪なんですよね。もうそれだけで牢屋に入れられてしまう。向こうでは歴史を認めて謝る人というのは、良い人なんですよ。でも歴史を修正したり、認めない人というのは悪、悪魔も同然なんですよね。これは戦後ずーとそれで動いてきているわけです。ドイツも『ナチスドイツは悪かったんで、ドイツは悪くはない』というような変な言い訳をして逃げているわけです。

こういう論調で戦後ヨーロッパはずっときているのです。そういう中で『杉田水脈は歴

史修正主義者だ』というレッテル張りをされたのです。これはオーストラリアですけど、現地の私を知らない人人はもう当然聞く耳を持たないわけです。そんなとんでもない人が来るのかと。私は別にホロコーストを否定しているわけではないのです。『慰安婦の強制連行はなかった。性奴隷ではなかった』ということを経世界的に訴えています、ホロコーストには触れたことが無いんですよ。その時にふっと思ったのです。今まで永年左翼の人たちは慰安婦問題とか、南京大虐殺の問題とかを国際的に広めてきました。で、国際的に広めてくるときにどうやって広めてきたか？中国・韓国もそうなんです、慰安婦問題とか南京大虐殺の問題はホロコーストに匹敵する大問題だと言って広めてきたのです。

私は今までこのことの意味が良く分からなかったのです。ホロコーストと慰安婦問題は一体どこが同じ問題なのだろうと。南京大虐殺とホロコーストと一体何が匹敵するような問題、戦争犯罪なんだろうと。それは規模も違いすぎるし、向こうは本当ですが、こっちは全くの捏造ですから、次元が違うわけですよ。それをそのように広めている。広めていることがおかしいということは知って居ましたので、国連でスピーチする時も「この問題はホロコーストに匹敵する問題だと言われているが、全く事実無根です」というような説明をしてきました。それが今回のことで、やっと分かったのです。「そうなんだ。ホロコーストと一緒にしたいんだ」と。だから『歴史修正主義者・杉田水脈はリビジョニスト。ホロコーストのことは言っていないが、慰安婦のことを否定して居る。慰安婦問題はホロコーストに匹敵する戦争犯罪ですよ。やっぱりあなたは歴史修正主義者ですよ』と言うところに持っていきたいのだということが分かったのです。

ここで私も色々気付きました。先ほども言いましたフランスの大統領選挙で、皆さんフランスのルペンさんのことを極右と紹介されておりましたよね。まあそれがおかしいのではないかという方もいらっしやいましたが、逆に私達日本人の政治家は海外でどのように紹介されているのでしょうか？

まず『杉田水脈は前衆議院議員であり、リビジョニスト・慰安婦否定論者』と言われておます。安倍総理は第一次安倍内閣が立ち上がった時にフランスでは『スーパーナショナリスト』と紹介されておりました。ルペンよりもひどいですよ。『こんな人が日本の首相になったぞ』と紹介されていたのです。稲田朋美先生とか、保守の政治家の方たちはそれこそ『ネガシオイスト』と紹介されておます。そういうレッテル張りは海外では非常に浸透しているのです。だから日韓合意がなされた時に世界中の新聞が日韓合意のことを報じました。その時に沢山書かれていたのは、『あの安倍が謝った』と書かれました。『あの安倍政権が、安倍内閣が謝った』『あの安倍』というのはそういう意味なんです。最初に『安倍さんというのはスーパーナショナリスト』だという形で世界中にまず報道されておりました。それで慰安婦の日韓合意で「軍の関与があったことを謝罪します」といったわけですから、『あの安倍が謝った』ということになるんです。非常にこれは恐ろしいなと思っています。私自身も国連等において慰安婦の嘘を追求してきましたし、日本の真実を発言してきました。昔の日本政府は事なかれ主義だったのですよ。私が国会で慰安婦問

題を質問した時も安倍総理も菅官房長官も、そして岸田外務大臣もみんな口をそろえて「慰安婦問題は外交問題化しません。歴史の問題は歴史の専門家に解釈は任せています」これしか答弁は帰ってこなかったのですよ。「しかしもう外交問題化しているじゃないですか？」ということなどを私は質問して居たのですが、そこから一ミリも動きませんでした。しかし最近はずいぶん変わってきていますよね。我々が「慰安婦の強制連行はなかったんだ」というと国連の女子差別撤廃委員会で発言すると、委員会の方から政府に「慰安婦の強制連行がなかったという意見を国連は聴取したけれど、これに対する政府の考え方を述べよ」と言われたんです。結局国連に対して文書では説明しなかったのですが、この話は後で少し詳しくやりますけれど、でも口頭で「慰安婦の強制連行を示すものはありません」と言いました。「性奴隷というものも事実には反します」と正式に言いました。要するに政府の見解と私達の見解とは一致しているのです。

それから今はグルンデルというところに慰安婦像が建ってしまっていて、私も2013年の国会議員の時に初めてそれを視察に行きましたけれど、現地に住んでいる日本人の方々が撤去訴訟というのを起こしているのですよね。それに対して日本政府はずーとだんまりを決め込んできたのですが、この間の最高裁判におきましてアメリカの最高裁判所に対して日本政府は意見書を送っているのです。この意見書の中には「慰安婦問題というのは日本と韓国の外交問題であって、女性の人権問題ではない」としっかいいと書いてあるのです。というようなことで、少しずつではありますが、政府もそのような発信を、今までは全くしなかったのですが、してくるようになってきました。私はこのままでいけば、政府さえしっかりと否定してくれれば、この問題ももっともっと進むのではないかと実は淡い期待を持っております。というのは、向こうの側の左翼の人達にとってよりどころは河野談話しかないんですよ。私自身も向こうの人たちの集いに潜り込んで、彼等がどんなことを話しているのだろうと言うのを見てきたのですが、彼らは「私達には河野談話があるのじゃないの」と言っています。「これを後生大事に守っていきましょう」と言っているのです。ここを崩せばいいのですから日本政府は近い将来、河野談話や村山談話を見直すかもしれない。ちょっとずつ明かりが見えてきたと思って居たのです。

思っているのですが、先程もお話したように「日本はリビジョニストだ、歴史修正主義者だ」と言うレッテル張りがされ始めているのです。向こうの方が一手も二手も先を読んで、新たな活動を起こしているのです。そこで、私がフランスに行った時に向こうで見つけたフリーペーパーのことをお話します。これはフランスで作られて、無料で配られています。その名前は『ZOOM JAPON』といい、7万部から15万部の発行部数があるフリーペーパーなのです。フランスだけで850か所の配布拠点があります。これはフランス語だけでなくイタリア語と英語とスペイン語に訳されてヨーロッパ中にまかれています。これの2月号を見て私は吃驚しました。表紙には『高倉健さんで迎える北海道』と書いてあって、一見すると観光特集のように見えます。しかし高倉健さんの北海道のことが書いてあるのは後ろの方の2ページだけです。表紙をめくると赤字で『この号は少し危険な内容

です』と書かれてあるのです。そして次のページから始まる特集は何かというと沖縄の特集なのです。『沖縄には基地反対運動があり、その運動を粛々とデモ隊がやっているにもかかわらず、いきなり機動隊が100人やってきて彼らを追い出した』というようなことが書いてあうのです。さらに『沖縄は唯一地上戦があったところで、悲劇の歴史がある』とか、『中国との付き合いが長かったために、日本の中で非常に差別されている』とか、『これは日本人対日本人の差別の問題だ』と書かれて居たり、『集団自決を強要された悲しい過去がある』とか、『オスプレイは騒音がすごくて皆さんが睡眠障害になっている』とか、このようなことが書かれているのです。左翼が言うて居ることと同じことが写真付きで書かれているのです。それだけではないのです。その次の特集は何かというと『日本会議』の特集なのです。『日本会議という団体は極めておぞましい、背筋がぞっとするような団体で、日本を過去の日本に戻そうとしている。戦前の帝国主義の日本に戻そうとしている。歴史修正主義の団体だ、リビジョニストの団体だ』と、『それとシンパシーを感じていて、非常に近い考え方を持っているのが安倍総理や稲田朋美だ』と書いてあるのです。中野晃一という上智大学の左翼系の教授の方のインタビューなんか載ってましてね。「これは戦争礼賛だ」とか、「日本では皇室を敬っているが、天皇制を維持するためには男系でなければならない」ということで、「日本は男尊女卑」とか、「女性は二級市民だ」と書いてある。「安倍さんもその考え方に賛同して居て、安倍さん自身も非常に女性差別主義者なんです、そういう批判をかわすために稲田さんを閣僚に入れているのだ」というようなことが書いてあるのです。

それだけでなく今月に入ってフランスに住んでおられる方から情報が寄せられまして、『GEO HISTORIA』という歴史雑誌がフランスにあります。これは7ユーロで売っています。

ああそうだ！大事なことを言い忘れました。先ほどのズームジャポンはフリーペーパーです。フリーペーパーですので広告料で成り立っているのです。いろんな飲食店とかが広告を出しているのです。「一番大きな広告を出しているのは何処だと思いますか？」もしかして私の書いたものを読んでいらっしゃる方も居られるかも知れませんが、答えますとNHKワールドです。発行されてから全部の裏表紙はNHKワールドなんです。ですから政府観光局も広告を出しています。これはフランスの日本大使館にも置いてあるそうです。皆さん内容を分かって置くことを了承されているのかなあと。こんなに日本を落とし込めることを書いてあるのに、フランスの日本大使館でも配布して居る。そしてNHKワールドが一番最大のスポンサーだと。

『GEO HISTORIA』は普通の雑誌なので、7ユーロくらいで売られています。今月号は日本特集となって居ます。1868年から1989年までということで、明治・大正・昭和時代の特集ということになって居ます。いろんな綺麗な写真なんかもあるのですが、今の日本人にはあまり居ないと思われる全身刺青の男性が写って居たり、なんかいろいろ時代錯誤のことが書いてあって、お正月の百人一首の写真なんか載っているのですが、『やくざ

の賭け事遊び』と書いてあったり、かといえ大東亜戦争の時に女生徒がセーラー服を着て銃をもって行進している写真があって日本では女子供でもこんなことをやっていた。小さいかわいらしい男の子が軍服を着て敬礼して居る写真が載っているのですが、『おかし』と、要は『日本は北朝鮮みたいな国』だったんだ。このような特集が掲載さされているかと思えば、いきなり途中から『阿部 定』特集があって『日本人はいかに変態か』みたいなことが書いてある。それもズーと読み進めていくと、またまた安倍総理が靖国神社に参拝に行く様子の写真があって、『過去は過去になったのか』と書いてあるのです。『拷問虐殺・人体実験、これらの戦争犯罪を今日本は薄めようとしている』『日本自体が歴史修正主義に向かっています』という特集が最後の方にあるのです。ページをめくると『慰安婦問題』のことが書かれています。次のページをめくると『南京大虐殺』のことが書かれています。で次のページをめくると『731部隊』のことが書いてあるのです。

今後もしもですよ、先ほども言ったように河野談話を破棄しますと言えば、それは私達にとっては万々万歳なんです、彼らからすると「ほら見ろ！日本は国ごと歴史修正主義者になっている」と言われて、相手にされなくなります。これは本当に大変なことです。今月号の『will』にも大高未貴さんとの対談の中でこのことを書いたのですが、日本の左翼の人達、反日の人達、中国・韓国、それから日本を悪者にしておきたい戦勝国の人達によって、このような考えは全部合致しているのです。だから私達の敵は中・韓だけでなく、反日日本人だけでもないのです。やっぱり欧米の人達で、日本を悪者にしておきたい人もそうなのです。その人達にとっては、自分達が悪いことをしたんだったら、同等に日本も悪いことにしておかなければ、自分達が原爆を落として30万人を殺したというような事と辻褃が合わなくなる。だから日本も悪いことをした国なんだというレッテル張りをしておきたい人々が一緒になって、日本の真実を発信しようとする私達やそれを後押ししようとする政府を『リビジョニスト』あるいは『歴史修正主義者』としてのレッテル張りを始めたということが一番最近の実感であり、最近のフランス、ジュネーブ及びオーストラリアの旅の所見です。

4. 国連について

それではこれから国連の話をちょっとしておきます。

皆さん「国連という組織は何をするところとお思いですか？」「何のために国連があると思いますか？」【聴者「戦勝国のクラブです」】「そうですね」

国際連合という翻訳がまず間違っていますよね。ユナイテッドネーションというのですから、いわば連合国・戦勝国なんですよ。普段国連とは何をやって居るところなんでしょうか？どんな仕事をしているのでしょうか？皆さんの中には国連軍とかあって平和維持とか、紛争とかに介入して平和活動をしていると思って居ますが、そうではありません。国連の主要構成メンバーは戦勝国です。戦争に負けた国、日本とか、ドイツとか、それから戦争の後に起きた国、植民地から独立して、所謂後進国とか、発展途上国とかを、それ

らを戦勝国の国連が指導してやるぞという立場なんです。但し国連の考えかたとしましては、その国の国民は善良なのです。でもその国の政府は悪なんですよね。政府は悪だから、変な戦争を仕掛けたりとか、いつまでたっても経済が良くならないで貧困問題が起こったり、人種や人権差別が起きたりする。それはその国の政府が悪だからなのです。その国民は善良なんだ。だから我々が善良な国民に代わって政府を指導してやる。これが国連の委員会とかの役割なんです。そこで国連は国民の人たちから意見を吸い上げます。「うちの国はこんな差別があるのです」「貧困があるのです」「こんな問題を解決しなければいけない」のですとか。「女性の人権が保障されて居ません」とか、「障害者が虐げられています」とかというようなことを吸い上げて、それを受けて国連が政府にああしろ、こうしろと勧告を出すのです。

それに対して政府が今後このような法律を作りますとか、差別解消のために条例を作りますとかをやりとりをするのです、これが国連の仕組みなんです。

じゃあ、皆さん国民の声を吸い上げると言いますが、誰もが国連に行って物を言えるかということ、そうではないのですね。誰が国連に行って話をするかと言えば、NGO なんです。NGO の人達が国連に行っているいろんなことを申すのです。このことを私は国連に行って話をするまでよくわかっていなかったのです。NGO というものがそもそも何をするものかよくわかって居なかったのです。NGO とは非政府団体というものです。日本人の方には馴染みがありません。NGO とか NPO とかができたのが 1990 年より後になってからであり、あまり馴染みがないと思うのですが、NGO とは政府ではないよという意味なのです。政府でない民間団体が国連に行き物事を申すことができるというシステムなのです。

そこで慰安婦問題のこの嘘をなんとかしたいと思って、私達が国連の女子差別撤廃委員会でスピーチをしたいとなり、我々を仲間としてくれる国連に登録された日本の NGO を探しました。結論は保守系の NGO は零です。一つもなかったのです。でも左翼系の NGO は山ほどありました。というのは私も全然知らなかったのですが、私達が普段目に見ているような団体が全部 NGO 登録して国連でステータスを持っているのです。吃驚しました。例えば、『新日本婦人の会』というのがあるのですが、これ共産党の婦人部のようなものなのですが、全国で子育て教室のような事をやったりしているのですが、この『新日本婦人の会』も国連でステータスを持った NGO の団体なんです。知りませんでした。それから皆さんが居酒屋に行くと『ピースポート』とかというポスターを見ると思いますが、辻本清美さんが早稲田大学の学生時代に立ち上げた団体です。あれも国連のステータスを持った NGO の団体なんです。もっとびっくりしたのは『日弁連』、これもステータスを持った NGO なんです。だから左翼はこの仕組みをよく知って居たのです。何十年も前から、だから自分達でこのような団体を作っては NGO 登録を国連にして誰もが国連に行き意見を言えるということをやっているのです。保守派はこの仕組みに気づくのが遅すぎたのです。私達がいざ行こうとしたら保守の NGO 団体が一つもなかったのです。仕方ないので奈良県に保守でもないが、左翼でもないというのを一個だけ見つけて、

そこに頼み込んで私とか山本優美子さんとか、我那覇真子さんとが発言をすることができるようになったのです。でもその団体も左翼でもないけれど保守でもないのになかなか難しい所がありまして、今私は自分で NGO を立ち上げようとしています。もっと言うならば、皆さんに言っているのは日本にも保守系団体があるじゃないですか？この団体でもいいです。日本会議でもいいです。国連に NGO 登録してもらえれば、国連に行って物が言えるのですよ。国連で左翼が言っているのと我々が言っているのと、その数が半々にならなければ日本は危ないなと思って居ます。そこで私はあちこち行って皆さんの団体を NGO にして下さいとお願いして回っているのです。でも今のところ「保守の団体で NGO 登録しましたよ」という団体が一つもないので、待っていても仕方がないので自分で立ち上げるしかないかなと思って、今立ち上げる準備をしているところです。

国連の女子差別撤廃委員会と言うところに私は行きました。行ってみて吃驚しました。日本の NGO があることないこと、否、無いこと無いことを言っていたのですね。女子差別撤廃委員会ですから、本当に女性の人権が尊重されていないところが世界中には一杯あるのですよ。女性が一人で外を歩けない所なんて、いっぱいありますよね。私よく例に出すのですが、ノーベル平和賞を受賞したマララさんという 17 歳の女の子は「女性に教育を受けさせろ」と言っただけで銃弾を受けたのですよね。そんな命に係わる女性差別がある国にとっては NGO が国連に行って物を言い、国連が政府に勧告するというのは有効なんですよ。そのような人は直接政府に物を言えないでしょうから。そういう点から見れば国連の委員会は機能していると思うのです。しかし皆さん日本で命に係わる女性差別なんてありますか？日本で女性の方にもう一回生まれるとしたら日本の女性で良いという方は 7 割くらいなんですよ。男性はその半分くらいだそうです。どこへ行ってもレディス・ランチと言うのは有るけれど、ジェントルマン・ランチなど見たことがないじゃないですか。皆さん働いている男性はお弁当とか月々お小遣い制で、財布のひもはお母さんがしっかりと握って、ランチ 500 円が来月から 400 円に減らされると言いながら、お母さんはママ友と 2 千円のランチ食べているのですよ。女性差別がどこにありますかと思えますよね。にもかかわらず、日本の NGO は女子差別撤廃委員会に行ってこんな差別がありますとか、あんな差別がありますと訴えているのですよ。日本の NGO は「日本では家父長制というものがあり、女性は家庭内では非常に虐げられている。専業主婦と言うのは非常に虐げられている」と言っているのです。「日本には四つのマイノリティがあって、それは琉球民族・アイヌ民族・部落・在日であり、この人達はすごい差別にあっているが、特に女性はひどい差別にあっている」「夫婦別姓にできないのは女性差別だ」とか、そういうことを NGO が言っているのですよ。国際社会に対して、日弁連などが言っているのですよ。それを国連は真に受けるわけですよ。『毎年・毎年、政府に対してそんなことは法律を作っちゃんとやりなさい』とか、『夫婦別姓などは早くできるようにしなさい』という勧告を出してくるわけですよ。それに対して政府は丁寧に丁寧に答えるわけですよ。私がそこに乗り込んでいって「慰安婦の強制連行はなかった」と言いました。というのは慰安婦問題と言うのは女子差

別撤廃委員会で議論されているのです。女子差別撤廃委員会だけでなく、今年に入って話題になった拷問禁止委員会、世界的には慰安婦問題は拷問と言うことになっているのですよ。さっきも言いましたが、フランスの雑誌も拷問＝慰安婦ということになっているのです。

国連の中の拷問禁止委員会、国連人権理事会とか、国際人権規約「自由権委員会」「社会権委員会」とかいくつものところで取り扱われて居て、全部で七つの委員会で慰安婦問題を取り扱っているのです。そもそもおかしな話で、というのは何故私達が女子差別撤廃委員会に出るかと言っていると、女子差別撤廃条約を日本と国連とが結んでいるから女子差別撤廃委員会に出ていかなければいけないのです。この条約を結んだのはいつかと言っていると 1985 年です。昭和 60 年です。阪神タイガースが優勝した年です。この年に結んでいるのです。この条約は本来過去に遡及しないのですよ。だから 1985 年に結んだのであればこれから未来の女子差別に対して色々と議論していこうということなんですが、これを蒸し返して過去の慰安婦問題を議論しているのですよ。しかも女子差別撤廃委員会だけでなく、七つの委員会で取り扱われています。しかし国連において現在進行中の、例えば中国のチベットとかウイグルとかの少数民族の人権弾圧とかは一切議論されていません。私もヴェトナムに行きまして、ヴェトナム戦争時の韓国軍の蛮行、強姦等によって生まれたライダイハンという子供達が居て…、と言ってももう大人になっていますが…、その人たちはすごい差別を受けているのです。こういうのは今現在進行中の人権問題じゃないですか。そういったことは全く国連ではやらないのです。

この前、6月に行ったときに新たなことを発見しました。国連で人権弾圧が行われているのです。中国に対して不利な発言をする人達は弾圧を受けているのです。それは、私達も国連に入る時は入館証をもらって身分証明書を発行してもらおうのですが、中国に批判的な人はそれ取り上げられて永久に国連に入れないようにされるということが起こっているのです。全然皆さんが思うような、小学校の時に習ったような国連ではないのです。国連は公平な平和な組織ですと言うのは全然嘘なのです。そもそも戦勝国によって生まれた組織ですから、今や中国は非常には幅を利かせていて、ウイグルの活動家の方達がニューヨークの国連の喫茶店でお茶を飲んでいたら、職員がつかつかとやって来て「こっちに来なさい」と言われて入館証を取り上げられて、「二度と国連には入れません」と言われて、「何故ですか？」と聞いても、答えてもらえないとか、そんなことが国連で実際に起こっているのです。そんなことをこの前国連に行った時にレポートしました。

それで我々は「慰安婦問題で強制連行はなかった」というスピーチを私となでしこアクションの山本優美子さんがやったのです。そうすると国連からいろんな質問が来るのです。今まで日本の NGO の人達は毎年・毎年同じようなことを言っているのに、同じような質問しか来なかったのです。しかし今回は、国連から「我々は慰安婦の強制連行はなかったという意見を聴取したが、これに対して日本の政府の考え方を述べよ」という質問が一つ増えたのです。今までは慰安婦問題に関してはこの人達が国連に行って「日本は慰安婦問題

に関して少しも謝って居ない、お金も払っていない、最近は教科書にも載せていない」というようなことを告げ口しに言っていたのです。それに対して国連は政府にちゃんと『補償しなさい、謝りなさい、教科書にも載せなさい』と勧告するわけですよ。それに対して日本政府はなんて答えていたか。『今まで二十年間、日本政府は謝って居ます。歴代首相はお詫びの手紙を慰安婦に書いています。そしてアジア女性基金と言うのを作って慰安婦に一人当たり 200 万円ずつお金を支払いました。今後は女性差別の無い 21 世紀を日本政府は努力します』と答えていたのです。私達が行ったので、質問が一つ増えたのです。政府がその時『そのとおりです、強制連行なんて無かったんです』と答えて頂ければ万々歳なんです。だって第一次安倍内閣では、『慰安婦の強制連行はない』ということを閣議決定までしているのです。閣議決定と言うのは一官房長官談話寄り上なんですよ。

でも、国際社会は、河野談話は知って居るけれど、第一次安倍内閣の閣議決定は誰も知らないんです。マスコミが悪いのですよね。

今回、政府は一旦ちゃんとした答弁書を作ったんですよ。『強制連行を示す証拠は何処にもない』という。『ここも、ここも全部調べて、アメリカの公文書も調べたが何も無い。それから性奴隷と言うのは事実反して居る』ということ、それから『日本は朝日新聞と言う新聞があって、その新聞がこういう嘘をついて国際的に広まったけれど、その朝日新聞も過ちを認めて訂正した』というようなことを A-4 にして 3~4 枚書いたんですよ。しかし日本政府はこれをひっこめたのです。何故ひっこめたのかと言うと日韓合意をやったからなんです。日韓合意ができたので、答弁書を引っ込めて『日韓合意をしました。以上終わり』という答弁書を提出したのです。おかしいですよ。『強制連行はなかった』という意見を聞いたから日本政府はどう考えるか?』と問われて居るにも拘らず、『日本は日韓合意をしました』と答弁したのです。外務省の人が私のところにやってきて、「今回はこのような答弁書は出しません」と、何故かというに日韓合意を年末にやりました。政府と国連がやり取りをするのは 2 月だったのです。12 月に日韓合意をして、2 月にこれがあったのですよ。「まあこのままやっておけば韓国が先に約束を破るだろう」と。そうすると「これは国際的な合意ですから、世界中の国が韓国はとんでもない国だなあと、韓国を非難する。日本は高みの見物でいいのだ」と言ったのですよ。でも今全然違いますよね。外務省の人の読みってなんでこんなに甘いのだろうと思ったのです。でもこの 2 月のタイミングで「日本が強制連行は無かったんだ」と言えば日本が先に合意を破ったと世界中から非難される、これだけは避けなければいけないと外務省は考えたのです。何言っているのだ。貴方たちが事実を発信してこなかったから、このようになっているのだと思ったのですが、まあそれ以上言えませんでした。しかし外務省の方が言うには「文章は引っ込めたが、当日口頭では言います」というようなことをおっしゃったので、口頭でいえるのならなぜ文章で出さないんだと思ったのですが、そこは外務省の針の穴を通すような戦略があったのです。さっき、も言いました日韓合意をやった時に世界中のマスコミが報道したのです。『あの安倍が謝った』『やっぱり日本軍が関与して居たのじゃないか』とか。『日本に奴隷

制度はなかったといったけれど、性奴隷と言う一番ひどい奴隷制度があったのじゃないか』と。世界中が散々報じたのですよね。しかしこの2月の国連の対日審査では外務省は日本の真実を口頭で一応言いました。産経新聞などは一面でそれを報じましたが、韓国・中国を含めて世界中はその発言を一切報道して居ません。アメリカ、ヨーロッパもカナダもどこも報道して居ません。何故そう言うことになったのか。まず文章で回答すれば回答した時点で国連のホームページに英語で掲載されるのです。まずそれを避けた。だから文章は引っ込めた。口頭でのやり取りは日本語でやりました。当然同時通訳もついたので。終わった後、私の知り合いの国連に居る他の国の記者が「今回の日本政府の答弁書を英語で頂戴よ」と言ってくるのですが、国連事務局からは「出せません」と言われました。だから対日審査で日本政府が口頭で述べたことは世界中で知れ渡って居ないという状況になっています。

ここからは最後のまとめということで、国連対策として私の考えを三つ述べたいと思います。

まず一つ目です。さっきも言いましたが、国連と言うのは政府を指導する団体ですので、政府の言うことは聞いてくれません。というのは、先ほども言いましたが、政府は日本の真実を国連で述べましたが、3月に出た女子差別撤廃委員会の最終見解ではNGOの言ったことは反映されていますが、日本政府の言ったことは一切反映されて居ません。今回デビット・ケイとか色々出てきていますが、国連は民間の味方なので政府の言うことは取り合ってくれないのですよね。他の国はそういうことがわかっているから、対自国審査について一人か二人かが行って、適当なやり取りをして帰ってきます。アメリカなどは政府の言うことが通らなかつたら拒否権を発動して止めるのですよ。日本だけです。対日審査があるとなると、各省庁から代表を選んで50人から60人の政府代表団を組んでジュネーブに乗り込んでやり取りするのです。それで政府の言ったことは何一つ反映してもらえないのですよ。やるだけ無駄じゃないですか。ほかの国はこのシステムが分かっているから、真面目にやらないのです。日本は報告書もきちっと本にして出したりとか、これも私達の税金ですが…、そういう代表団を組んでジュネーブまで行って、くそ真面目にやっています。このようなことはそろそろやめた方が良いでしょうし、アメリカのように日本政府の考えが通らないのであれば、お金を出すのはやめるよと言えばいいのです。日本が一番多い拠出金をユネスコにも国連に対しても払い続けているのですよ。ほかの国は、拠出金は払わないけれど、裏金はいっぱい払っている。だから先ほどのように中国に有利だったり、韓国に有利だったりするのですよ。ということが国連で起こっているわけです。

日本は裏金を出すようなことはしません、それは日本人の国民性ですから。

で、言われたとおり拠出金を払っているのです。裏金を払って裏工作をしるとまでは言いませんが、拠出金を払うのをやめたらどうかと思うのですよね。

二点目です。日本ほど人権が保障されている国はないのです。女性差別も障害者にして

も高齢者にしても人権が守られている国はないんです。だから日本のNGOは人権屋だと思ってほしいのです。もう利権ビジネスです。この人達はこれをやればお金が儲かるからやっているのです。『日本のNGOはこういう人達だ』ということをもっと国際的に知らせていかなければいけないと思います。

その人達が今回のデビット・ケイ氏のような国連報告者に嘘を吹き込んで、その嘘を国連で言うわけです。

今回6月の人権委員会では皆さんに「嘘を吹き込まれていますよ」ということを、証拠を示しながらやってきたので、「自分達は人権を侵害されている」と言った人は恥をかくわけです。「あの人たちに騙されたらダメですよ」と、日本国民はもっと大掛かりに国際的に発信していかなければいけないと思います。

もう一つです。とはいえ、今後とも国連と付き合いがいかねばならないのですから。そのような中であって、国連はNGOの言うことしか聞きませんから、さっき申しあげたように保守系のNGOを日本の国の中でもっと増やしていくことが必要なのです。この3本柱が今後国連と付き合いがための一番良いのではないかと思います。

話し足りない事がまだまだあるのですが、今月号の『正論』に先ほどの『ZOOM JAPON』であるとか、『GEO HISTORE』の話なんかも書いています。これ今日発売になったばかりなんです。書いていますのでこちらの方も併せてお読みいただければと思います。以上ご清聴ありがとうございました。

【質疑応答】

Q 1 : 元自衛官の森と申します。国連の話をお聞きし驚いたのですが、視点を変えて今の蓮舫氏の二重国籍の問題、彼女は全然法律に触れないと言っています。しかし彼女は二重国籍でなくて、三重国籍でないかとまで言われています。先ほどの話で、フランスの大統領は愛国心がすごいのだとお聞きしたのですけれど、日本の総理大臣になる可能性もある蓮舫氏のこの問題は大きな問題だと思います。杉田さんはこのことを明らかにできないのでしょうか？

A : 私は蓮舫さんのことは詳しくないのですが、4月に出版した「何故私は左翼と戦うのか」という本の中で、蓮舫さんのことに少し触れています。おっしゃる通り彼女には愛国心が見られませんし、二重国籍も明らかにしないまま、自分のことは棚に上げて「安倍政権には明らかにしろ」と言っているのですよね。しかしどなたが訴えて裁判になっているそうです。それが進まないのです。私もどこを攻めれば良いかわからないのですが、国籍要綱と言うのがあるはずなんです。日本は二重国籍を認めていない国ですから、あること自体がおかしいのですが、裁判で戦えるとするなら、その根拠は公職選挙法しかないと思います。というのは、貴方は嘘の経歴で選挙に出ましたねと。学歴詐称とかがありますよね。この点で戦うしか方法がないのです。現在それを訴えている団体とかがありますが、裁判が全く進まないのです。総務省とか法務省とかが、この点に関し見解をしっかりと出すべきだと思います。蓮舫さんだけを責めるのではなく、総務省に対してどういう見解か？法務省はどのように考えているか？もっと国民が声をあげて訴えていかねばならないと思います。私自身はどのようにして良いかわからないので、本に書いたりブログに書いたりできないのですが、皆さんも是非声を挙げていただきたいと思います。

Q 2 : 沖縄の反基地闘争の山城氏がジュネーブで意見陳述しましたね。その時に反対意見を言われた方がいらっしゃるということですが、それは杉田さんですか？

A : 一緒に行っていた我那覇真子さんが行われました。

Q 3 : このようなことやデビット・ケイ氏の日本政府への勧告等を見ると、ジュネーブを通じて日本のNGOが相当向こうでやっていると思われれます。人権委員会の副会長が日弁連の副会長だといった噂も聞きましたが、本当ですか？

A : 人権委員会はわかりませんが、女子差別撤廃委員会の委員長は日弁連の林陽子さんと言う方です。

Q : その彼女は外務省の肩書を持っているのですか？

A : 肩書は有りません。外務省の推薦を受けていくのです。

Q : 外務省は何故このような人を推薦するのですか？

A : 女子差別撤廃委員会で委員長等になれる人はフェミニスト運動をやっており、フェミニストでなければならないのです。櫻井よしこさんとか、私などはなれないのです。田嶋

陽子さんはなれます。フェミニスト運動をしっかりとやりましたという人が行く委員会なんです。

Q：そういう人たちが日本の悪口を言っているのですよね。困ったものですよね。

A：私は女子差別撤廃委員会の女子差別撤廃条約を破棄したら良いと思うのです。そうしたら行く必要なくなりますから。これは長谷川三千子先生が良くおっしゃっているのですが、日本は国連と結んだ条約を一つも破棄して居ないのです。拷問委員会など、日本に今拷問などありますか？無いならば拷問禁止条約を破棄すれば良いんですよ。今の時代に適合しない条約などは勇気をもってどんどん破棄していけば良いと思うのです。

そうすればこの人達も行けなくなりますから。

先程、沖縄の基地問題を話しましたが、今回6月の人権基本委員会は一か月にわたって行われたのですが、今回の私達の日本のチームは3チームに分かれてやりました。1チームはクマラスワミ報告の再調査への回答。これは私がずーとやっているのですよね。2015年の9月に初めて発言して、今回で4回目になります。いつも違う人が行っていて藤岡信勝先生とかが行かれたりしていましたが、今回はテキサス親父日本事務局の藤木俊一さんがやりました。もう一つ今回は山城浩次被告への反論ですよね。これは沖縄の我那覇真子さんがやりました。三つめはデビット・ケイ氏の表現の自由に対して日本は表現の自由がないということの報告書に対する反論で、これは大阪市立大学の山下名誉教授が行いました。

でも皆さんこのことをご存知ないんです。山城さんが国連人権委員会でスピーチしたことはご存知でしょうが、私達が行って発言したことはどなたも全くご存知ないんですよ。私は最近思うのですが、国連の影響力と言いますが、実はこれマスコミの影響力なんです。山城さんは行く前から朝日新聞や毎日新聞が仮保釈中の身分でありながら国連に行って発言しますと取り上げました。そうして国連で発言したらNHKなどはトップニュースで映像を流すわけですよ。でも私達のスピーチは一度も流れたことが無いでしょう。我那覇真子さんのスピーチなども一度も流れたことが無いでしょう。新聞でしたら、産経新聞でしか掲載されたことがありません。この間、朝日新聞の記事で杉田水脈を検索したら記事が全くないのです。だから影響力があるとか、無いとかいうのは、そこではないでしょうか。同じ日本人でありながら我那覇真子さんの映像がNHKで流れたら国民も知るところになりますよね。国連の影響力と言っても、私達のことが報道されないならいくらやっても国内的には影響力がないですよ。マスコミの所為だということが最近よくわかってきたのですよ。マスコミが表現の自由を言いながら、マスコミが偏ったことしか報道しない。

Q4：国連が陰で何をやっているかを知るにはYou-tubeが極めて有効だと思います。先生についてもYou-tubeで知りました。You-tubeというのは意外とニュース性も新しい。

You-tubeにで出てから暫くしてからマスコミが取り上げます。我々はつなば棧敷にされて

いるということが You-tube をみることでわかりました。しかし国連がこれほどまで腐っているとは思ってみもしませんでした。

Q5 : 左翼でない人たちが NGO を作って国連で訴えると言ことは大変大切なことだと思うのですが、国連のシステムの中で、善人で有る国民が政府の悪口を言わないで一体何をどのように訴えるのですか？例えば日本の政府は良いのです。しかし韓国の政府は悪いのです。それで日本人が困っているのです。そういうことをアピールできるようなシステムなのですか？

A : 他国のことを言うことはできません。韓国が問題だというならば韓国人がやらなければできません。

Q : そうすると日本の左側の NGO が言って意見陳述する時にそれに対する反論をすることはできるのですね。

A : そうですね。我々が人権問題にかこつけてやったのは慰安婦問題が女性の人権問題を超えて世界中で日本人のバッシングになっていると。日本人の人権問題になっているから、それを訴えるという、日本人がバッシングされているのです、日本人の人権が脅かされているのですということを訴えるために行ったのです。日本政府がそのところに良いことを言っているとか、悪いことを言っているとかは言わないです。だから私達は強制連行がなかったというだけで、貴方たちは政府の回し者かと言われたのです。

Q : 左翼の NGO とそれを支援するマスコミによって、我々一般国民がいじめられているのです。それは人権問題になるのですね。

A : それはなります。

Q : なかなか理屈付けは難しいですね。

A : 理屈付けは何も難しくはないのです。国連は自分の頭では何も考えないのです。国連は言われたら、言われたことを言われたまま政府に質問するだけですし、私達の発言も許容してくれます。このようなことはちょっと調べればわかるはずなんです。ちょっと調べればわかる話でも全然調べないのですよ。鵜呑みにしてそのまま政府に聞きます。

Q : NGO として国連でスピーチをするためには外務省の支援は居るのですよね。

A : 外務省の支援はいりません。関係を持ったら非政府団体ではなくなりますから。

Q : それでは旅費さえあれば勝手に行ってできることなんですね。

A : NGO を作って国連に申請して、2年から3年にかかるのですが、認められればできます。

Q : 「我々の人権に関わる事なのだ」ということの理屈付けが結構難しいと思うのです。我々の人権をいじているのは実は我が政府では無い。政府でない、私達と同じ民間の NGO に犯されている。日本の善人がその NGO に人権を犯されています。またそれにのったマスコミに犯されていますと。

A : 誰によって犯されているかは言わなくていいのです。私達の人権が犯されていると言え

ばいいんです。私達も誰によって犯されているとは言っていないのです。女性が差別されていると言われていることに関する事象を言っているだけです。一方、この訴えている NGO の人達も政府が悪いとは言っていないのです。私どもは慰安婦問題が海外に広まったおかげで海外に住んでいる日本人がいじめにあっています。これだけでいいのですよ。中学校で慰安婦劇とかをやるのですよ。日本の子供たちは立場がないじゃないですか。しかも嘘の慰安婦問題でいじめにあっているのです。

Q: 海外に居る日本人がいじめにあっているというのは良いアイデアですね。海外に居る日本人がいじめにあっている、それは人権問題ですね。わかりました。ありがとうございます。

A: 3月に「慰安婦像を世界中に建てる日本人達」という本を産経出版社から出しました。慰安婦問題が最初に世に出てきた経緯等を年表にして出しています。そして、これが国連等で何時から取り上げられるようになったか等を年表にしています。教科書的に分かり易く書かせています。そちらの方もお読みいただければ良いと思います。

テレビに出て発言するのが一番良いのですが、私はなかなかテレビに出してもらえません。国連の問題を取り扱う時や慰安婦の問題を議論する時はコメンテーターとして杉田水脈を使ってくれと皆さんがメールや電話をしてくだされば、それによって、ああこのような人が居るのかと言うことにもなります。例えば上野千鶴子さんの本など誰も読んでいないけどベストセラーになるのは、日本中の図書館に置かれるからなんですよ。左翼の人はそういうことを皆やっているのです。この本を置いてくださいとやっているのです。私の本など東京の図書館で置いてあるのは十何か所しかないそうです。だから本を持って行ってこのほんを置いて下さいと頼むとか、やれることをちょっとでもやらないと旨く行きません。残念ながら、インターネットから情報を得る国民は全体の2%となんです。あと98%はテレビと新聞ですよ、だから私達は選挙で通らないということなのです。なんとかできることは何でもやって、諦めるのではなく、どうやればテレビに出られるようになるのかと言うことも必死に考えていかなければならないし、どうやれば本を読んでもらえるかと言うこともやれることは全部やろうと思って居るところです。

Q6: NGO を作るにあたって一番難しいのは何ですか？

A: まだそれは調査中なんですけど、今私は撫子オピニオンと言う組織を作りまして『正論』とか『WILL』などで名前が良く知られている例えば、中山恭子先生などに顧問になって頂いて後、葛城奈海さんとか、先ほどの我那覇真子さんとかに入ってもらって女性のオピニオンリーダーの会を立ち上げたんですよ。そして次の段階でそれを NGO にしようと思っ
て居るのです。今 NGO にするには何が必要か？ どういう資格が居るのか？ 役員になるにはどういった人が必要なのか？ と言ったことを調べているところです。お金もどの位集めなければいけないのか？ と現在調査しているところです。

Q7: 自衛隊の OB の原と言います。私は防衛研究所で 30 年近く戦史を研究したんですよ。

南京事件とか慰安婦問題とか、いろんな問題をマスコミで取り上げられるとなると、私が正面に立っていろいろとやっていたのですが、その他にも外務省の依頼でいろいろとやってきました。そのような中で、私が痛感しているのはマスコミと外務省がいけないと思っています。外務省は何かあると直ぐに聞きに来るのです。そして聞いて、わかって居るような顔して居るけれどもわかって居ない。外務省のある人に聞きましたが、外務省の職員が国連の委員会に行っても太刀打ちできないのです。なぜなら担当者がころころ変わってしまうし、そういうことに関心を持っていても出世しない。外務省のエリートでそういったことをやる人は居ないでしょう。他の省庁から来た人とかにこのような役割を当ててしまうのです。本省で選ばれた人が本当に真剣になって取り組むという人が居ないんですよ。そういったことでやっぱり外務省がこういったことを作った元凶だと思うのです。やろうと思えばできるんですが、やらないんです。そういったところで外務省にはエリートが居ると言われますが、どんなエリートが居るのかと、いつも疑問を持っているのですが、どうですか？

A: いや本当にそうなんです。さっきもお話したように私は外務省の人から呼び出されて、今回は文書での提出はやめますとって、日韓合意をしてから日本から合意を破ったと言われては困るからと言われて、そのとおりにやって外務省の思惑通りになったのですよね。これは外務省では良くやったという話なんです。私達に説明した人は国会議員になっていきますからね。自民党の参議院議員に。その人の手柄なんです。そういう考えなんです。まったく真逆です。日本の正当性を最後まで訴えた人が出世するならいいのですが、逆なんです。省益を通した人が出世するというか、それに自民党も加担してるのかと思うとちょっと残念なんです。そここのところはあります。

これからお話することは、本日は説明しませんでした。報告書を出した時に一般の人達の監査を受けるのです。その時に監査委員となっている人々がこの NGO の人々なんです。NGO が問題を提起して、日本の報告書に監査を入れるシステムはすごいんです。霞が関でも永田町でもやりたい放題で、圧倒的に私どもの活動が足りていないのです。向こうの人はすごい元気で、お金もあって、人も沢山いて、いろんなところに手をまわして自分達の主張を通そうとしています。お役所はお役所仕事で事なかれ主義で外務省はそのあたりを良いようにやられてしまっているのではと思います。

しかしちょっとずつ変わってきているのも事実です。例えばメルボルンで、私は先ほど申したようなことに会いましたが、メルボルンの総領事は私の講演を聞きに来てくださいました。そして「私がリビジョニストでない」ということをちゃんと市役所に言って下さいました。私どももちゃんと働きかければ外務省の人も動いてくれると思います。しかし何より、先にも言ったように良い政治家が居なくては駄目なんです。さっきお話したグレンデル市の慰安婦像撤去裁判に対する意見書を出したのも、だいたい山田宏先生や青山繁晴さんあたりが外務省をつついて、それで重い腰を挙げて外務省が意見書をアメリカの最高裁判所に提出したと言う経緯があるのです。このようなことを見ると、やっぱり

私達ができることは外務省をつつつく政治家を沢山当選させることだと思います。
(文責は偕行社教育問題プロジェクトにあります。)